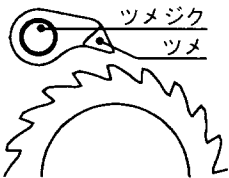
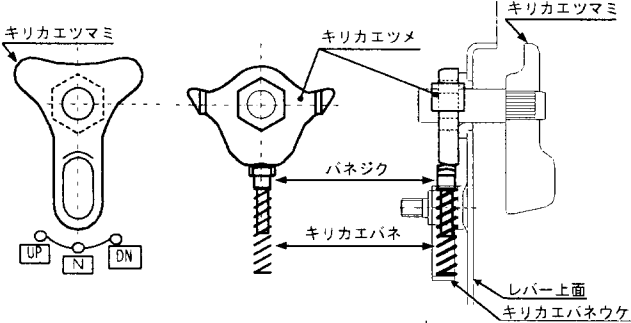
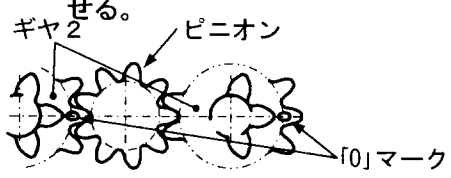
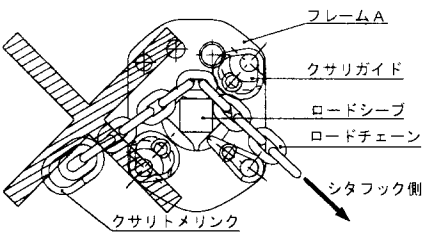
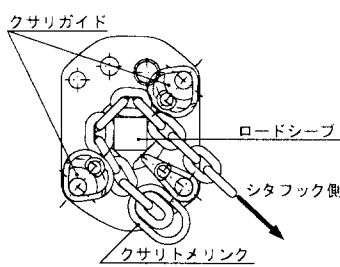
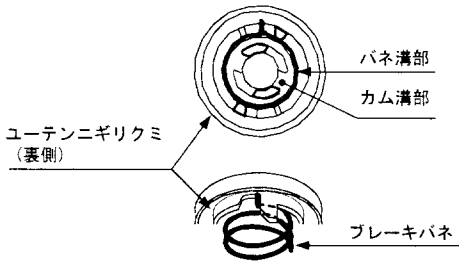
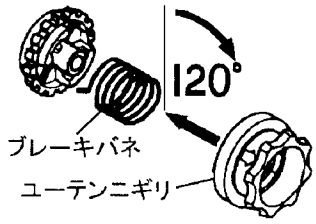
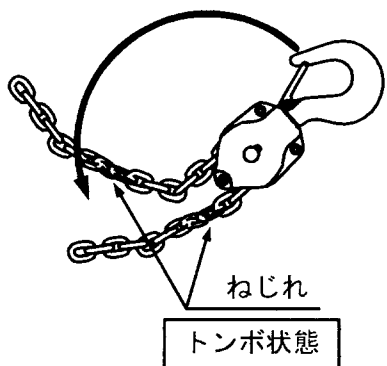
キトーレバーブロック
故障の原因と対策（L5 形）

1. 故障の発生

危険 レバーブロックの状態に何か異常を感じたら、ただちに操作を中止して、異常の原因を調査してください。

- 故障発生は、誤った使い方による場合に多く見られます。取扱説明書をよく読み、正しい使い方を行なってください。
- 分解修理が必要なときは、別冊「分解組立マニュアル」を参照して正しく行ってください。
- 修理は専任の保守管理者に任せるか、キトーにご相談ください。（又は巻末のキトーサービスネットワークの中からお近くのサービスショップにご相談いただいても結構です。）

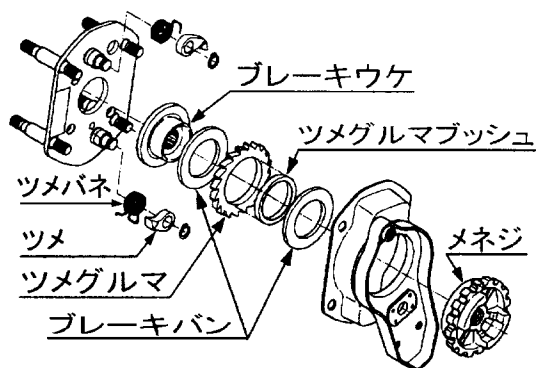
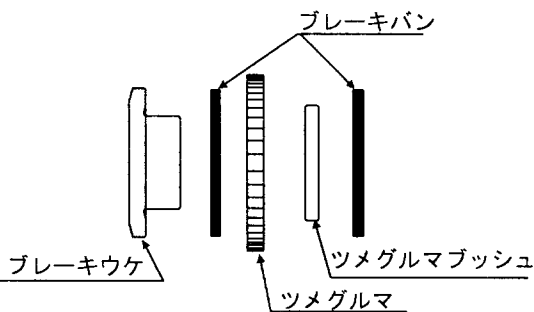
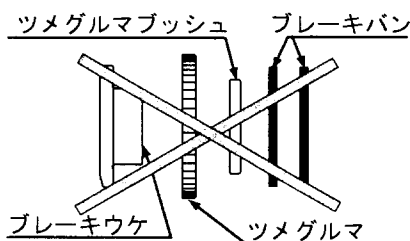
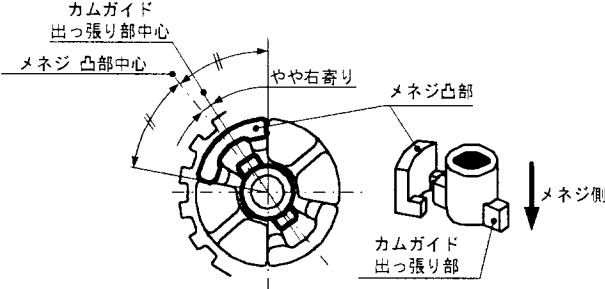
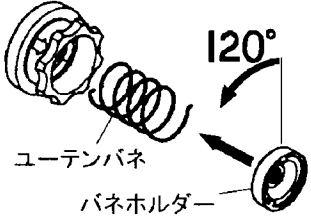
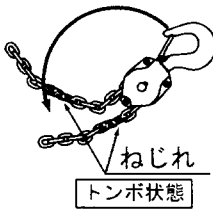
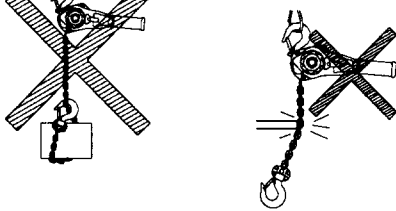
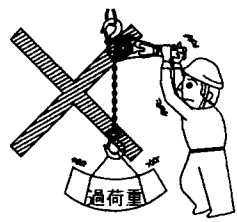
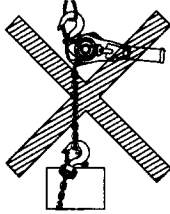
2. 故障の原因と対策

危険 部品交換修理が必要なときは、キトー純正部品以外は使用してはいけません。

状　況	原　因	対　策
DN UP	**注意** 音も故障の有無を判断する重要なポイントです。 日頃から、レバーブロックの作動音にも注意してください。 ①巻上げ　▌巻上げ時も、レバーを戻す時も「カチカチ」と鳴ること。 ②巻下げ　▌巻下げ時には、音がしないこと。 ▌レバーを戻す時には「カチカチ」と鳴ること。	
巻上げ不良 1. 荷が巻上がらない。 ①ツメの音がかすかにする。	▌ツメグルマの組立不良。 ツメグルマが、下図のように裏返しに組まれていると、ツメとツメグルマが正しく噛み合わない。 	▌ツメとツメグルマの噛み合いを正しく再組立する。 ＊組立終了後は、必ず作動テストしツメ音を確認する。

状　況	原　　因	対　　策
②ツメの音が全くしない。	▌ツメの機能不全。 ＊長時間、未整備のためツメジクとツメがゴミや油により固着し、ツメがツメグルマと噛み合わない状態になっている。 ツメジク ツメ	▌定期的にオーバーホールを実施する。 ＊ツメバネの劣化も考えられる。よくチェックすること。
	▌キリカエツマミの組立不良。 ＊バネの入れ忘れ。 ＊組立方向の誤り。	▌正しく再組立する。 ＊組立終了後は、必ず作動テストしキリカエツメの音を確認すること。
	キリカエツマミ UP N DN キリカエツメ バネジク キリカエバネ	キリカエツマミ レバー上面 キリカエバネウケ
	▌キリカエバネのへたり。	▌定期的にオーバーホールを実施する。
③レバー操作ができない。	▌ギヤ 2 の組立不良。 ＊「0」マークの位置不適当。	▌正しく再組立する。 ＊組立終了後、必ず作動テストし、スムーズに操作できるか確認すること。 ⚠注意 ギヤ 2 の「0」マークはピニオンを中心として図のように組み合わせる。 ギヤ 2 ピニオン 「0」マーク
2. 荷が、巻上がったり巻上がらなかったりする。		
①ツメの音が小さかったり、不規則。	▌ツメバネの劣化によるツメのもどり不良。 ＊バネがへたっているか、破損している。	▌使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施する。
	▌ツメバネの組込み忘れによる、もどり不良。	▌組立終了後、必ず作動テストし、ツメ音を確認する。

状　況	原　　因	対　　策
3. 作業中、空転したり荷がずり落ちたりする。	▌ロードチェーン組込不良によるロードシーブとの噛み合いのはずれ。 ＊図のように組まれていると発生する。 	▌正しく再組立する。 ＊組立終了後は、必ず作動テストし正常に巻上がることを確認すること。
4. 無負荷のとき荷が巻上がらない。	▌ブレーキバネの組立不良。 ＊バネのねじり角が不十分なため、ブレーキが締まらない。 	▌分解組立マニュアルを参照し、正しく再組立する。 ⚠注意 ユーテンニギリを時計方向に120° 回転させ、ブレーキバネを組み込むこと。
5. 途中までは巻上がるが、それ以上は巻上がらない。	▌シタフックのねじれ（トンボ） ※対象機種：6.3t 	▌使用前にシタフックのねじれ（トンボ）がないことを確認する。

状　況	原　因	対　策
巻下げ不良	⚠注意 巻下げ不良は、主にブレーキ部の不具合によるものです。	
		⚠注意 乾式ブレーキです。ブレーキ面に油を塗らないこと。
1. 荷が巻下がらない。	▌ブレーキの締まりすぎ。 ＊荷をかけたままの長時間放置。 ＊作業中のショック。	▌キリカエツマミを"戻し"にしてレバーを強く引いて巻下げ、ブレーキを解除する。
	▌錆付きによるブレーキ部の締まり。	▌錆び付いた部品を交換する。なお、定期的にオーバーホールを実施する。
2. 巻下げを始めた瞬間、荷が落下した。	▌ブレーキ面に大きなごみが入ったとき。	▌分解の上、ごみを取って拭き取り再組立する。 ＊万一、ブレーキ面にきずがある場合は部品を交換すること。
	▌著しい錆びによるブレーキ面のすべり。	▌錆び付いた部品を交換する。なお定期的にオーバーホールを実施する。
	▌ブレーキバンの組立不良。 ＊下図のようにブレーキバンを一方だけに入れたり、又は一方を組み忘れたときなど。 	▌下図のように、正しく再組立する。 ＊組立終了後は必ず作動テストを行うこと。
	▌ブレーキバンが割れた。	▌オーバーロードが原因。ブレーキバンを交換し、正しい取扱いをする。
3. 荷がズルズル滑る。	▌ブレーキ面に小さなごみが入ったとき。	▌分解の上、ブレーキ面のごみを拭き取り、再組立する。 ＊万一、ブレーキ面にきずがある場合は部品を交換すること。 ⚠注意 組立時、ブレーキ面をきれいに拭くこと。

状　況	原　　因	対　　策
	▌ブレーキバンの摩耗。 ＊長時間の高頻度使用によるブレーキ部品摩耗。 ▌メネジ、カムガイドの組立不良。 ＊メネジを締めずにカムガイドを組み立てるとブレーキが締まらないことがある。	▌使用頻度に応じ、定期的にオーバーホールを実施する。 ▌分解組立マニュアルを参照し、正しく再組立する。 **⚠注意** **メネジをしっかりと締めてから、カムガイドを組込むこと。**
遊転操作不良		
1. ユーテンニギリが引き上げられない。	▌ブレーキバネの変形、破損。	▌定期的にオーバーホールを実施する。
2. ユーテン状態でロードチェーンを引っ張っても動かない。 注:故障ではない。	▌ユーテンニギリに触った状態で、ロードチェーンを引っ張った。 ▌強い力でロードチェーンを引っ張った。 （手引力によりブレーキが締まる）	▌ユーテンニギリに手をそえずに、ロードチェーンを動かす。 ▌軽い力でロードチェーンを引くこと。 **⚠注意** **負荷時に誤って、遊転操作しても荷が落下しない為の機構です。**
	▌ブレーキバネの組立不良。 ＊バネのねじり角が多すぎる。	▌巻上げ不良 の 4 項と同じ。
3. キリカエツマミを遊転にした瞬間、荷が落下した。	▌ブレーキバネの組立不良。 ＊バネのねじり角が不十分であるためブレーキが締まらない。	▌巻上げ不良 の 4 項と同じ。
4. ユーテン解除がやりにくい。	▌ユーテンバネの組立不良。 ＊バネのねじり角が不十分。	▌正しく再組立する。 **⚠注意** **バネホルダーを反時計方向に120°回転させ、ユーテンバネを組込むこと。**

状　況	原　因	対　策
ロードチェーン		⚠注意 ロードチェーンは重要保守部品の一つ。正しい取扱い、点検を含めた安全管理を徹底してください。 ⚠注意 ロードチェーン交換時は、クサリピンも同時に交換してください。
1. 摩耗の発生。	▌油ぎれ。 ＊長時間の高頻度使用。	▌取扱説明書にもとづき、常にオイルを塗っておくこと。又、定期的にオーバーホールを実施のこと。
2. 傷、変形の発生。	▌組立不良によるロードチェーンのねじれ。	▌分解組立マニュアルにもとづき、正しくロードチェーンを組込むこと
	▌シタフックのトンボ(6.3t)。 ねじれ トンボ状態	▌使用前に、シタフックのトンボがないことを確認する。
	▌荷物や障害物との接触。	▌チェーンの直巻きは行わないこと。 ◆危険 定格荷重を超えた荷を吊らないこと。 過荷重
	▌オーバーロードによるピッチの伸び。	
3. 腐食(錆)の発生。	▌油ぎれ。 ▌雨ざらしでの使用。 ▌海水、薬品等の影響。	▌使用環境に応じた安全管理の徹底。 ⚠注意 使用しないときは必ず屋内に吊り下げて保管してください。 HELP

状　況	原　　因	対　　策
4. ロードチェーンの切断。	▌前記状況の 1～3 や、ショックロードを含めた複合要因であることが多い。	◆危険 ロードチェーンの切断は死亡事故を含む重大事故の原因にもなります。正しい取扱い、日常点検、定期点検を含めた適正管理を実施してください。
フック		▲注意 取扱説明書にもとづき、正しく使用することがフックの不具合を防止する第一歩です。
1. 口が開く。	▌オーバーロード ＊定格の 2 倍を超える荷重をかけると徐々に広がる特性となっている。	◆危険 フックの口の開きは、オーバーロードの警告です。定格荷重を超える荷をつってはいけません。 過荷重
	▌先端で荷をつる。	▌フックの中央で荷をつる。
	▌吊り具の掛け方が悪かったり、フックに対し不適当な大きさの吊り具の使用。 ※スリングの角度が広すぎる。	▌作業に適した吊り具を選ぶ。 ▌スリングの角度は 120°以下とする。
2. 首部のまがり。 （シャンク部） シャンク部	▌先端で荷をつる。	◆危険 首部折損の原因にもなります。フックの中央で荷をつること。

状　況	原　　因	対　　策
3. ねじれ。	▌荷にチェーンを巻きつけた。	▌チェーンの直巻きは行わない。
4. フックラッチのはずれ。	▌オーバーロードによるフックの変形。 ▌フックの大きさに不適当な吊り具の使用。 ▌フックラッチにスリングを掛けた。	▌正しい玉掛け作業を徹底する。